



刑期を終えた押し売りを家に迎え入れ、
ご飯をふるまい旅費まで与えた母。
私の政治家としての原点は
母の圧倒的な優しさにあると思います。
参議院議員 橋本聖子さん(冬季五輪日本人女性初のメダリスト)

前は橋本聖子議員の政治活動や、アスリートとして冬季五輪で初の日本人女性メダリストとなったこと、またきものへの想いなどを紹介しましたが、今回はその続きとして議員のお母様への思慕について紹介したいと思います。きものが大好きで、事あるごとに和装をしていたお母様。政治家としての原点と自らが語るその優しさとはいった

いどんなものだったのでしょうか？
「父はとても厳しい人でしたが、母は女性らしさにこだわっていました。運動している時は、男性以上に男性らしく。普段は女性以上に女性らしくと。でもできなかつたですけどね。起きた時、寝る時は家族に三つ指をつけて挨拶をするものと躰けられました」
「母は父とは逆に内面がたくましく、優しいいん

ですけど、優しすぎて怖いと周りの人がいうくらいでした。母について、とても印象的なエピソードがあり、その光景が今でも自分を支える原点になっていると思います」
「私は苫小牧港や千歳空港に近い山間部の、小規模な家族経営の牧場で育ちました。その地域は、小学校4年生の頃、110

番してもなかなか警察が来ないような場所でした。その時は北海道内の刑務所で刑期を終えた人が、苫小牧港からフェリーに乗ることが多いこともあって、タチの悪い押し売りに狙われていました」
「ある時、隣家、とい

うすると、母は割烹着に着替えると、すぐに台所に立って、誰を呼ぶこともなく、食事の準備を始めました」
「そうしたら、すごい怖い人が来たんです。玄関で『奥さん、これ買わないか？』って変なものを出して来たんですが、母が落ちていない、間に合っているから上がりませんかとい、食事を振る舞ったんです。だ

んだんその怖い人も表情も優しくなってきたのを鮮明に覚えています。そして帰る時には『これ帰る時の足しにしてください』とお金まであげたんです。最初、とても高圧的だった人が、最後は深く頭を下げて帰っていききました。その光景を思い出すと、今でも涙が出てきます」(編集部註：議員は本当に涙ぐんでおいででした)
「お父さんに言ったら、怒られるから黙っておいてと言われたんですが、あまりにもすごいことだったので、

『お母さんすごかったんだよ』と父に言ってしまったんです。すると、あの怖い父が、その母の行動に『強いな』って」
「お父さんが強いつて言っていたよ。なんでそんなに強いのか？と母に尋ねたら『お母さんはね、優しいから強くいられるの』と。せつかく罪を償ったのに、人の優しさに触れることがないともた同じことを繰り返すことになる」

にどれだけの励みになっただか想像できませんね。
「実は、その方、数十年してわざわざ、お礼に来てくれたんです。『あの時、あの優しさがなければ、今、更生した今の自分はありません

せん』とおっしゃって。この時の母の行動や考え方、その結果が、政治家になる時の『原点』になっているように思います」

チ(山田洋次監督、高倉健主演)のような素敵なお話でした。やはり人を救うものは「優しさ」なんですね。橋本聖子議員のこれからも続くであろう活躍に期待したいものです。



ポスターでは160センチと記載されていますが、実際は158センチだそうです。日本人の中でも小柄と言える橋本さんが世界と戦い、さらにメダリストになったことに驚きとともに敬意を表したいと思いました。

